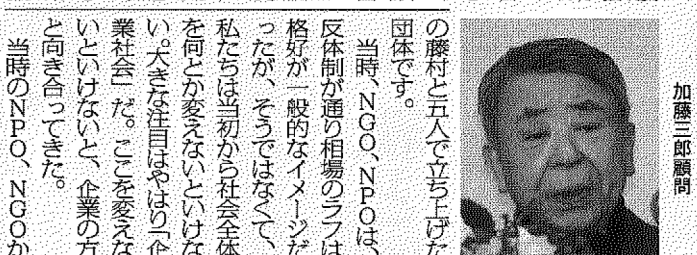


静脈産業やノーベル賞になるような話も受賞 第18回経営者「環境力」大賞顕彰式、発表

第一八回経営者「環境力」大賞の顕彰式および発表会が二月二十七日午後二時、四時五十分、ホテルグラン・ドビル市ヶ谷東館三F「静脈フォーラム」で開催された。主催は認定NPO法人環境文明21(藤村コノエ代表理事)。

第一部：顕彰式と受賞者発表。第二部：話題提供の講演、二部構成で実施。開会挨拶で環境文明21顧問の加藤三郎氏は次の要旨で話した。

環境文明21は三年前に設立した。当時、地球環境が問題となり始め、二十世紀から引きずっていた「文明の病」ではないか、直さなければいけないが根本的な対策がなされていないのではないか。その思いで環境文明という名前を、代表



加藤三郎顧問

ら、あの団体は役人出身がいるから体制側みたいに見える。だから、全員の理解を得て、日本全体、あえて言えば世界全体が二十世紀型のやり方では駄目で、新しいやり方に変えていかないといけないとやってきた。

私たちが注目したのは中堅・中小企業で、経営者が大きな意思決定を持ち、その人の一存で会社は変わっていくことに着目し、経営者へのアプローチを考え、賞賛の項目を「八項目作って、以来、経営者「環境力」大賞として一八回やってまいりました。

今回も素晴らしい受賞者五人、奨励賞者一人、非常

に感慨ある発表があると思います。それぞれの立場で広報していたら、思っているだけ多くの方に盛り上げていたなと思います。

◇ 祝辞は経営者「環境力」クラブ会長の林英夫・武州工業(株)相談役が、次の要旨で挨拶した。

仕事を頑張っているベトナムに行ってきた。ハノイの昼間は太陽が見えない。本当に環境が悪い所だ。大丈夫かと思うくらいだが、発展をする方が先で、とにかく元気がいい。若者もいしやる気十分で活気に満ちている。いろいろ改善している。この頃、働いていて言っています。製造業は落ちています。売上げは落ちていません。なぜか。無駄なことをしない。徹底的にやる。またまた日本は勝ち目があると思うし、元気になるとも思っています。製造業が、こんなに一生懸命やっているのに、なぜこんなに体力

ちあふれている感じだ。日本は今、そういう時代ではなくなっている。少子高齢化している中で相当工夫しないと、商売でなくなっている時にベトナムに行くと感じた。そうは言っても日本はいい国だ。製造業をやっている楽しいと思うし、環境に配慮することが、結果良くなると実感している。

うちの会社は稼働日三〇日、休みが三五日にわたっている。いろいろ改善している。この頃、働いていて言っています。製造業は落ちています。売上げは落ちていません。なぜか。無駄なことをしない。徹底的にやる。またまた日本は勝ち目があると思うし、元気になるとも思っています。製造業が、こんなに一生懸命やっているのに、なぜこんなに体力



受賞者(前列)と役員関係者

大賞受賞者は次の通り。関誠・ゼンドラ(株)代表取締役(東京都文京区)出版業(業界新聞書籍発行、コインランドリ経営、リユース衣類の回収・無償譲渡)。田中靖訓・(株)レックスホールディングス(大阪市)資源循環業、(資源リサイクル、コンサルティング)。田畑章・エイク電池(大阪府)製造業(リチウムイオン電池の劣化診断)。南部修太郎・(株)Eサーモシエントック(京都市)製造業(IoT用自立電源システム、熱電発電モジュール搭載ユニット)。三谷直輝・ニッコー(石川県白山市)製造業(陶磁

器、セラミック基板)。奨励賞は受賞者。高野正人・(株)まごころ清掃車(東京都八王子市)産業廃棄物処理業(産業廃棄物の処理に関するコンサル)。藤村代表理事が賞状を授与し、受賞者の紹介と、一人ひとりの受賞理由を述べた。

その後、六人の受賞者による「私の環境力」発表が行われた。

◇ 第二部の話題提供は、小村智宏・未来経済研究室主宰、元三井物産戦略研究所産業情報部部長が、「二〇二〇年代の世界情勢の捉え方―自由」と「協調」

の視点から」のテーマで講演した。閉会と総括を藤村代表理事が次の要旨で話した。共通点は本場の循環社会を話していた。関さん、田中さん、産業廃棄物という静脈産業でチャレン

ジされ、田中さん、南部さんは技術、三谷さんは新技術、小村さんの講演で新しい世界観、社会観はどこから生まれ来るか。私たちが環境文明と言いつつ明確な価値観が分らないが、皆さんの新しい技術、考え方を通じていくのだなというところを感じた。私自身、教育をやっている関係上、皆さんが人や従業員を大切にしているベース、大企業にない違いを感じました。田畑さん、南部さんの研究は、うまくいけばノーベル賞になる話だ。ここだけでなく多くの人に聞いていただきたい。

藤村コノエ代表理事



環境文明という名前を、代表

林英夫会長

ら、あの団体は役人出身がいるから体制側みたいに見える。だから、全員の理解を得て、日本全体、あえて言えば世界全体が二十世紀型のやり方では駄目で、新しいやり方に変えていかないといけないとやってきた。

小村智宏氏

の視点から」のテーマで講演した。閉会と総括を藤村代表理事が次の要旨で話した。共通点は本場の循環社会を話していた。関さん、田中さん、産業廃棄物という静脈産業でチャレン

ジされ、田中さん、南部さんは技術、三谷さんは新技術、小村さんの講演で新しい世界観、社会観はどこから生まれ来るか。私たちが環境文明と言いつつ明確な価値観が分らないが、皆さんの新しい技術、考え方を通じていくのだなというところを感じた。私自身、教育をやっている関係上、皆さんが人や従業員を大切にしているベース、大企業にない違いを感じました。田畑さん、南部さんの研究は、うまくいけばノーベル賞になる話だ。ここだけでなく多くの人に聞いていただきたい。

の視点から」のテーマで講演した。閉会と総括を藤村代表理事が次の要旨で話した。共通点は本場の循環社会を話していた。関さん、田中さん、産業廃棄物という静脈産業でチャレン

ジされ、田中さん、南部さんは技術、三谷さんは新技術、小村さんの講演で新しい世界観、社会観はどこから生まれ来るか。私たちが環境文明と言いつつ明確な価値観が分らないが、皆さんの新しい技術、考え方を通じていくのだなというところを感じた。私自身、教育をやっている関係上、皆さんが人や従業員を大切にしているベース、大企業にない違いを感じました。田畑さん、南部さんの研究は、うまくいけばノーベル賞になる話だ。ここだけでなく多くの人に聞いていただきたい。

の視点から」のテーマで講演した。閉会と総括を藤村代表理事が次の要旨で話した。共通点は本場の循環社会を話していた。関さん、田中さん、産業廃棄物という静脈産業でチャレン

ジされ、田中さん、南部さんは技術、三谷さんは新技術、小村さんの講演で新しい世界観、社会観はどこから生まれ来るか。私たちが環境文明と言いつつ明確な価値観が分らないが、皆さんの新しい技術、考え方を通じていくのだなというところを感じた。私自身、教育をやっている関係上、皆さんが人や従業員を大切にしているベース、大企業にない違いを感じました。田畑さん、南部さんの研究は、うまくいけばノーベル賞になる話だ。ここだけでなく多くの人に聞いていただきたい。